

岡山県の地震

令和8年(2026年)8月

目 次

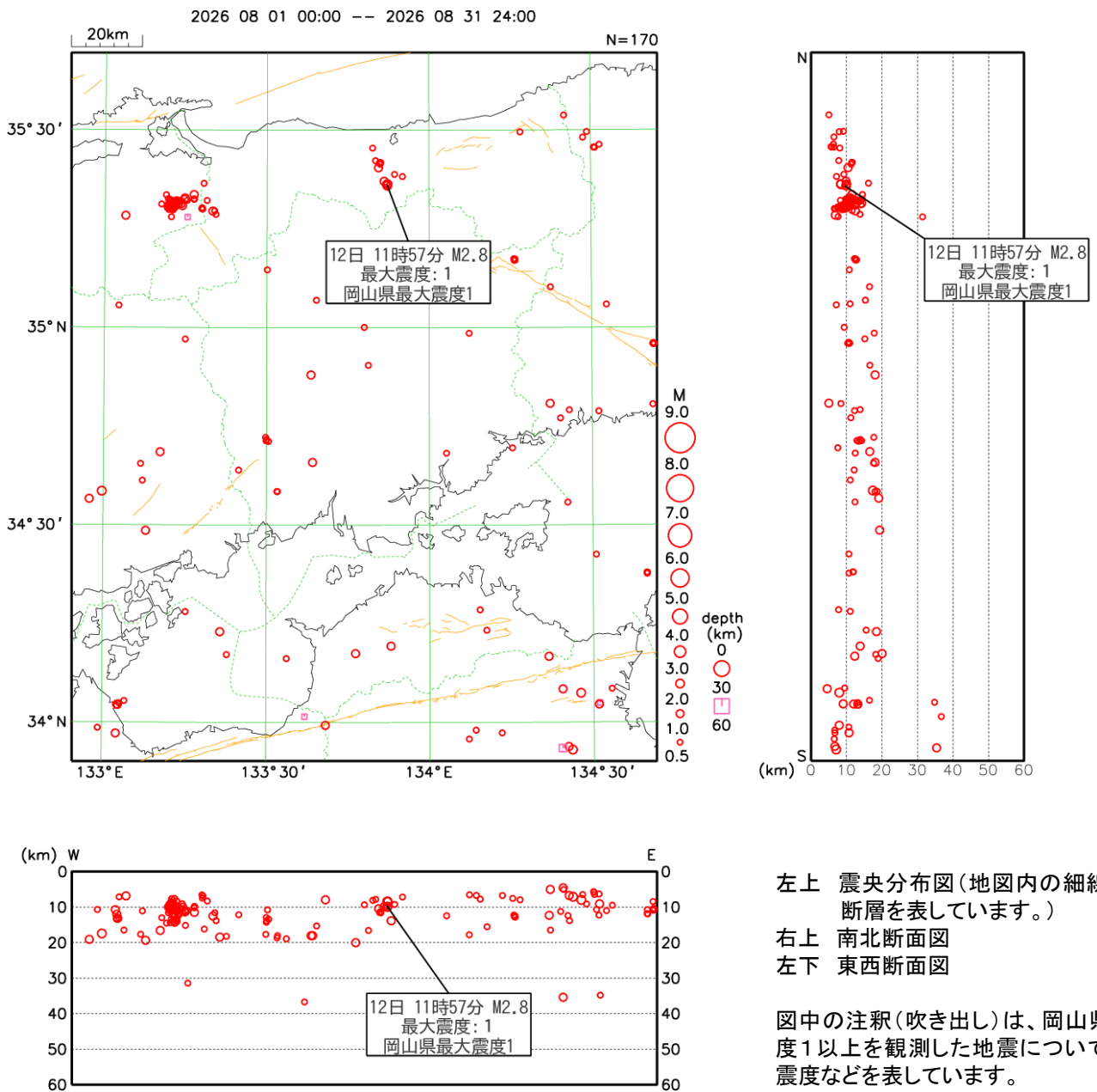
○岡山県及びその周辺の地震活動(8月)	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 3
○地震防災メモ No.248	
液状化	… 4

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
 - この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
 - 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(平島、小宝島)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(8月)

震央分布図及び断面図



概況

・8月に岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は2回(前月:3回)でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(8月)

2026年08月10日00時48分	滋賀県北部	35° 19.8' N 136° 22.9' E	16km	M4.3
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 真庭市禾津 *			

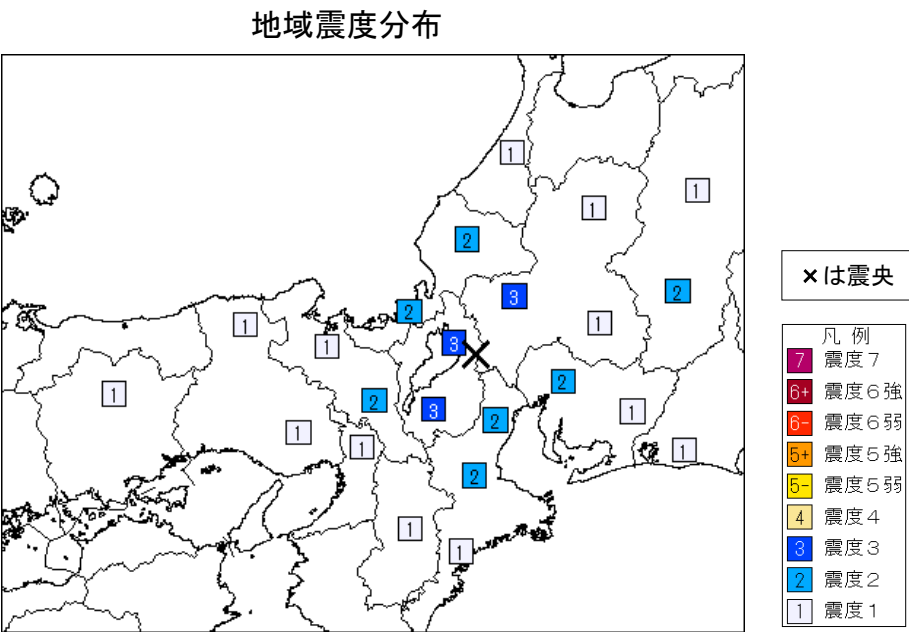
2026年08月12日11時57分	鳥取県中部	35° 21.6' N 133° 52.2' E	10km	M2.8
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 鏡野町上齋原 *, 真庭市蒜山下和 *			

注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。

2 地名に * 印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(8月)

2026年8月10日00時48分 滋賀県北部の地震



<地震の概要>

10日00時48分 滋賀県北部の地震(深さ16km、M4.3)により、岐阜県で大垣市など5市町、滋賀県で彦根市など7市町で震度3を観測したほか、中部地方から中国地方にかけて震度2～1を観測しました。岡山県では真庭市で震度1を観測しました。

2026年8月12日11時57分 鳥取県中部の地震



<地震の概要>

12日11時57分 鳥取県中部の地震(深さ10km、M2.8)により、鳥取県倉吉市・湯梨浜町、岡山県鏡野町・真庭市で震度1を観測しました。

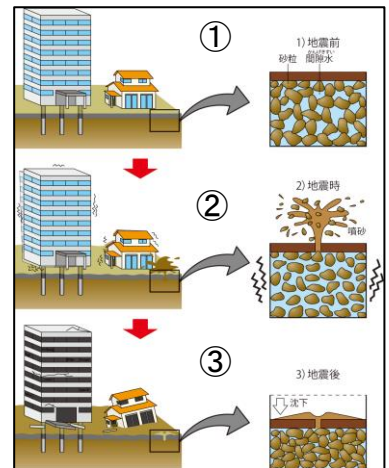
液状化

今年1月6日に最大震度5強を観測した島根県東部の地震の際には、鳥取県・島根県の一部農地で液状化による被害が発生しました。今回は地震による災害の一つである「液状化」について解説します。

○液状化とは

右図は液状化発生の模式図です。水を多く含んだ地盤は①のように砂粒同士が支えあい、その間を水で満たされている状態です。普段地盤は固いように見えますが、地震により強い振動が加えられると、②のように砂粒の支えあいが崩れ、水と砂粒が混ざり合って液体のようになります。これが液状化です。また、水が砂とともに噴出する噴砂現象も発生します。その結果、③のように沈下・亀裂・陥没などの地面の変形が起こります。

液状化が発生しやすい場所は、地下水位の高いゆるく堆積した砂地盤で、例えば、河川による堆積で形成された平地、埋立地、干拓地などがあげられます。



「政府地震調査研究推進本部HP」より

○液状化による被害

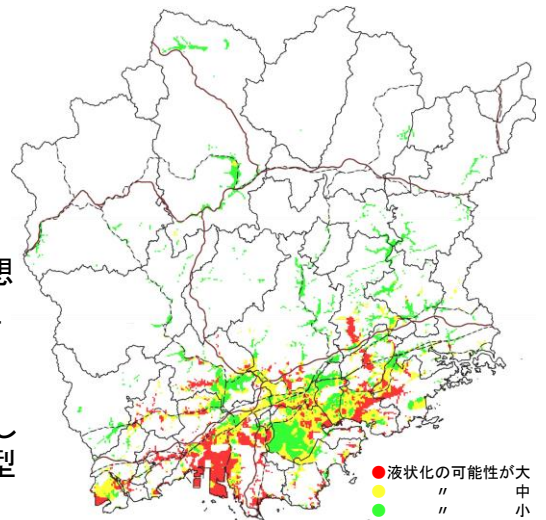
下の写真は、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の際の関東地方での液状化による被害写真です。地盤が液状化すると基礎の浅い地上の重い構造物等は沈み、逆に、中が空洞で比重の小さい地下埋設管やマンホール等は浮き上がります。このため住宅の沈下や傾斜、道路やライフライン施設の被害など、地震後の生活に大きな影響を及ぼす被害が発生し、またこれらが複合的に発生することで影響は長期に及ぶことになります。



○岡山県で液状化が発生しやすい場所

右図は岡山県による「南海トラフ巨大地震」発生時に想定される液状化の危険度分布図です。液状化の可能性が大・中の地域は、主に県南の河川の河口付近や埋め立て地、干拓地に分布しています。

このようなお住いの地域における地震のリスクを把握しておくことは大切です。この機会に「おかやま全県統合型GIS」(<https://www.gis.pref.okayama.jp/pref-okayama/Portal>)の防災情報や、市町村提供のハザードマップ等により液状化を含む地震による地域のリスクを確認し、普段や非常時の対策を検討しておきましょう。



岡山県 南海トラフ巨大地震による震度分布図・液状化危険度分布図について より

<https://www.pref.okayama.jp/page/308887.html>



岡山地方気象台では、今年が1946年に発生した昭和南海地震から80年の節目の年に当たることから、気象台に残る当時の被害写真などの記録を公開しました。

<https://www.data.jma.go.jp/okayama/jishin/showanankai.html>

過去の震災を知り、我がこととしてとらえ、次の南海トラフ地震等に備えましょう。